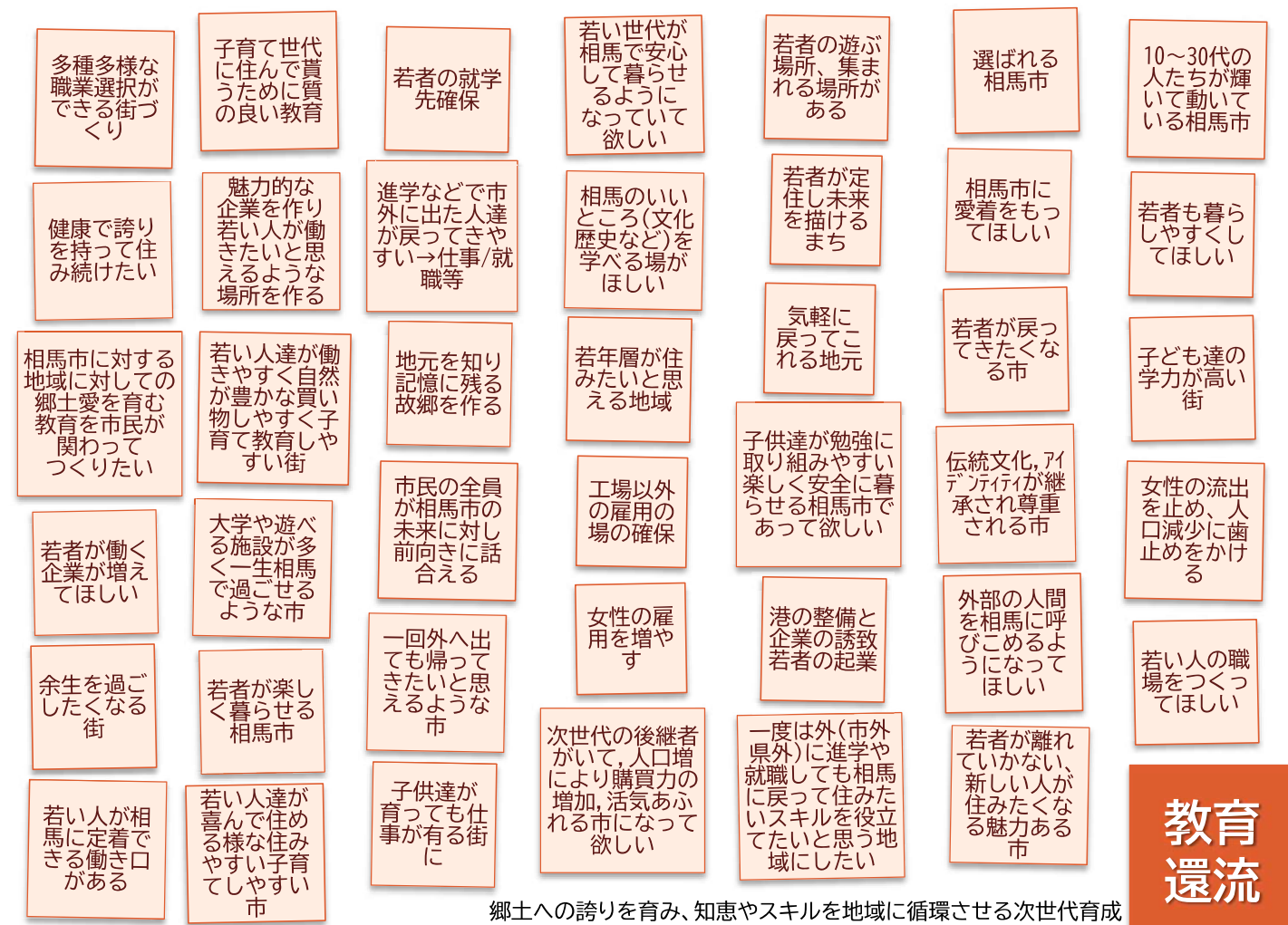


市民ワークショップ結果について



郷土への誇りを育み、知恵やスキルを地域に循環させる次世代育成



既存の地域資源を柔軟な発想と連携で磨き、自立できる「稼ぐ循環経済」の確立



共生

多世代が自然に集い、孤立を防ぐ温かい共生コミュニティの創出



安全

日常の安全を守り、大規模災害を乗り越えてきた「共助の力」を発揮

生成AI（Google Gemini Notebook）によるまとめ

～まちづくりワークショップから生まれた、市民が考える10年後の相馬市のありたい姿～

基本理念：自立と共生の融合



主体的な自立

行政に全てを委ねるのではなく、市民が自律的に考え、行動し、自らの力で地域を支える強さを持つこと。



お互い様の共生

誰一人として孤立させず、多世代がそれぞれの役割を補完し合いながら、温かい絆を紡ぐこと。

マインドセットの転換（量から質へ）

FROM：過去の拡大モデル	TO：未来の価値創造モデル
目標：規模の拡大 人口増加や規模拡大を追う時代	目標：生活の充実（QOL） 一人ひとりの人生の質（Quality of Life）を高める豊かさを追求
主体：行政主導 「してもらう」まちづくり	主体：市民の自発的参画 市民が自らの意思で地域経営に深く関わる自治
社会：閉鎖的コミュニティ 世代や属性で分断される社会	社会：開かれたサードプレイス 多様な人々が自然に交わる、寛容で自由な、家族・職場（学校）に代わる第3の居場所
経済：補助金依存 外部の力に頼る経済	経済：内発的な価値創造 地域固有の資源を磨き上げ、自ら富を生み出す

具現化する4つの将来像



1. 教育：還流：郷土の誇りを紡ぎ、知恵を還す
地域の歴史や文化を深く学び、その誇りを次世代に伝えとともに、外で得た知見を再び地域に循環させる教育環境を創る



2. 共生：誰も排除されず、多世代が補い合う
年齢や国籍を問わず、異なる背景を持つ者同士が尊重し合い、孤独を感じることはない温かな人間関係を土台とする



3. 経済：固有の資源を磨き、自立した富を循環
地域の資源（歴史・伝統文化・特産物等）をアップデートし、デジタル技術等も活用しながら、地域内で経済が完結・自立する仕組みを構築



4. 安全：日常を守り抜き、強靱な連帯を示す
物理的なインフラ整備に加え、有事の際にも機能する市民同士の助け合いのネットワークを「日常の安全」として定着させる